

## ストック (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	菌核病	苗木枯病	アザミウマ類	アブラムシ類	コナガシガ	アオムシ類	ヨトウムシ類	ハイマダラノメイガ	ハマダニ類
トップジンMゾル	1		*f	5	◎								
ホームイ水㊟	1・M3		*d	1		◎							
ゼンターリ顆水	11A		*b	-				◎					
チューリサイド水	11A		*b	-				◎					
チューンアップ顆水	11A		*b	-				◎					
トアロー水CT	11A		*b	-				◎					
バシレックス水	11A		*b	-				◎					
オンコル粒5	1A		*a	1				◎					
			*e	3		◎							
ガゼット粒	1A	劇	*a	1				◎					
オルトラン水	1B		*b	5				◎				◎	
マブリック水20	3A	劇	*b	2				◎					
モスピラン顆溶	4A	劇	*b	5			◎	◎					
モスピラン粒	4A		*c	1								◎	
アニキ乳	6		*b	6				◎					
アフーム乳	6		*b	5				◎					
コテツFL	13	劇	*b	2			カ	◎	◎	◎			◎
ノーモルト乳	15		*b	2				◎	◎				

㊟：チオファネートメチル含有剤 ◎：ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。

\*a: 定植時

\*b: 発生初期

\*c: 育苗期

\*d: 播種前

\*e: 生育期

\*f: 発病初期

カ: ミカンキイロアザミウマ

## ストック (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
萎凋病	播種または植付け前	・ 次の薬剤のいずれかで土壌消毒する。 ガスタード微粒剤または バスアミド微粒剤 30～40kg/10a	育苗箱は消毒する。
菌核病	生育期	・ 3年程度、輪作する。 1. 発病株は速やかに処分する。 2. 蕾の出るころまで次の薬剤を散布する。 トップジンM水和剤⑤●* 1500倍 トップジンMゾル⑤● 1000倍 3. 蕾の出るころは灌水を調節し過湿をさける。	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
苗腐病	播種または植付け前	・ 次の薬剤のいずれかで土壌消毒する。 ガスタード微粒剤または バスアミド微粒剤 20～30kg/10a	
灰色かび病		・ 発病前から発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤⑤●* 1000倍 フルピカフロアブル* 2000～3000倍	施設では過湿、密植をさける。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
コナガ		・ 施設栽培…開口部に防虫ネット等を張り、成虫の侵入を防ぐ。 ・ 露地栽培…生育初期は防虫ネット等のトンネル栽培を行う。	
	定植時	・ 次の薬剤のいずれかを施用する。 ガゼット粒剤 ・ 株元散布 9kg/10a ・ 全面土壌混和 18kg/10a オンコル粒剤⑤ ・ 株元散布 0.5g/株 ・ 全面土壌混和 9kg/10a	薬剤により、幼苗期と花蕾出現期に被害が出やすいので注意する。
	発生初期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを施用する。 アフアーム乳剤 1000～2000倍 オルトラン水和剤 1000倍 コテツフロアブル 2000倍 トアロー水和剤CT 1000倍	